



能忍寺たより

行事紹介

○秋季彼岸会

秋季彼岸会は秋分の日をそれぞれ中日として前後の三日ずつ、七日間を通して行われます。お彼岸は、仏教の唐彼岸という教えに由来するもので、死後の世界である彼岸と現世である此岸が最も近くなると言われていいます。秋のお彼岸は、重要な仏教行事の一つで多くの寺院で法要が勤められています。この期間はお釈迦様の教えに基づいた仏道に精進する期間とされており、供養の法要やお墓参りすることが一般的になっています。春のお彼岸のお供えものは、ぼたもちですが秋の彼岸ではおぼぎと呼ばれます。これは、それぞれの季節に咲く花、春は「牡丹」、秋は「萩」になぞらえていると考えられています。また仏教では五供の教えに基づき「香・花・灯明・浄水・飲食」をお供えすることが大切とされています。期間中には、ご先祖さまに感謝し自分自身の心を清めてください。お供え物にも一つ一つに意味があるのので、ぜひ調べてみるのも良いかもしれませんね。



今月のことば

いばしんえん
〽意馬心猿〽

心が煩惱や欲望に乱されて、心が静まらないことを意味します。暴れる馬やは、制することが難しいことから、心も衝動に駆られて暴れ出してしまおうと制御できなくなってしまうのです。皆さんも一度は経験があるのではないのでしょうか。そのような時は坐禅がおすすりめです。坐禅をすることで、心が落ち着き集中力が高まると言われています。能忍寺でも坐禅を体験できるので、お気軽にご予約ください。

コラム あれもこれも仏教用語

○勘弁

「勘弁してください」今回だけは「勘弁を」のように他人に謝罪をして許しを求める際に使う言葉ですが、こちらも元々は仏教語とされています。

本来「勘」はしらべる、「弁」は区別する、見分けるという意味で使われていました。「勘弁」とは師匠が弟子に対して禅問答を行い、その悟りの深淺を判断する問答のことを指していたので、師匠は弟子の受け答えを通して、その力量や素質を測ったとされ、その見極めが「勘弁」であったとされています。この問答に合格できれば次の修行に進むことを許され、「勘弁ならぬ」と言われればまだふさわしくないと判断されたことから、次第に「許す」という意味で使われるようになりました。



はじめての仏教

○お釈迦様が亡くなられてから

八十年の生涯を終え、涅槃(煩惱の炎が吹き消された状態)に入られた後、お釈迦様のご遺体は荼毘に付され、ご遺骨は「仏舍利」と称して八つに分けられ仏塔に納められました。仏舍利は百〽二百年後にインドを統一したアシカ王によって、さらに八万四千に分けて各地の仏塔に安置したと伝えられています。日本にも仏舍利は伝えられており、一九〇四年にシャム(現在のタイ)国王から本物の仏舍利が送られ、これを安置するために名古屋に日泰寺が創建されました。

お釈迦様の入滅後、その教えを整理しようと弟子たちが集まり会議を開きました。お釈迦様の信頼が厚く、教団の後継者であったマハーカーシヤバが中心となり、五百人の高弟(五百羅漢)を集めお釈迦様から聞いた説法の内容をまとめたこの第一回目の会議を「第一結集」といいます。この中で大きな役割を果たしたのは、お釈迦様に長く付き添い最も多く説法を聞いたとされるアーナンダと戒律に精通したウパーリでした。お釈迦様の没後百年ほど経過したのち、二回目の大きな会議となる「第二結集」が招集されました。この時お釈迦様の言葉だけを正當とする「上座部」と、変化を柔軟に受け入れる「大衆部」とに仏教界が分裂してしまいます(根本分裂)。それぞれは現在の「上座部仏教」と「大乘仏教」におおむねなっています。